

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 2 月 20 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2170101998		
法人名	社会福祉法人 イーストヘルスケアソサエティ		
事業所名	グループホーム スマイル		
所在地	岐阜市芥見野畑1丁目25番地 (電話) 058-241-2100		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年2月12日	評価確定日	平成20年3月26日

【情報提供票より】 (平成 20 年 2 月 4 日 事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	7 人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	4 階建ての	4 階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	42,550~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050 円	

### (4) 利用者の概要 (平成 20 年 2 月 4 日 現在)

利用者人数	8 名	男性	0 名	女性	8 名	
要介護1	2 名	要介護2	3 名			
要介護3	3 名	要介護4	名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	85.8 歳	最低	76 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	河村病院
---------	------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然に囲まれた環境で、建物の4Fにホームがある。特別養護老人ホームやデイサービスと併設されており、応援体制も整い、行事参加で利用者との交流が図られている。近隣には母体法人の病院があり、医療との連携が密で利用者・家族の安心は大きい。法人の利点を活かしつつ、外食やドライブの楽しみごとのほか、調理の日など、日常においての自立支援に向けた工夫もされている。日当たりの良いホーム内に利用者と職員の暖かい雰囲気が感じられるホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題であった介護計画の目標をより具体化し、実施状況や日々の気づきを一人ひとりの実施確認票に記入して、見直しができるように工夫された。サービス担当者会議では全員の意見が出されている。申し送りノートを作り、情報の共有が確実に出来るように改善された。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価の意義を職員同士で話し合うと共に、自己評価を職員全員で行って日々のケアの向上に活かしている。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、家族、地域の自治会長・民生委員、行政、包括支援センターが出席し、開催されている。ホームの活動や外部評価の結果、改善課題への取り組みを報告し、委員からもアドバイスを受けている。定期的に関係できるよう努力している。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会が開催され、ホームと家族又は家族同士の意見交換が行われている。来訪時にも報告だけでは終わらず、家族の要望を引き出すように言葉に配慮し努めている。情報は職員間で共有し、利用者が安楽に生活を送ってもらえるよう日々話し合っている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域とは、散歩や買い物等外出の際に挨拶をしているものの、母体法人が大きく、ホームが4Fにあることから、地域においてここにホームが存在していること自体の認識と理解がされにくく、地域の一員として地域に受け入れられる事が困難であるが、多方面に働きかけ、連携が図れるよう努力している。</p>

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるホームの役割を念頭に置き、「協働生活を送ることで認知症を遅らせる」という方針を理念として掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議で運営方針や毎年のホーム目標を互いに確認し合うことで、日々のケアに活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩や買い物等外出の際に挨拶はしているが、母体法人が大きく、地域との付き合いが困難な状態である。法人内で利用者の行事活動や他サービス利用者との交流が行われているので、多方面に働きかけ、連携が図れるよう努力している。	○	運営推進委員会のメンバーやボランティアを通じてホームの認識をしてもらうなど、地道な努力と積極的な働きかけをあきらめずに続けられる事を期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を職員同士で話しあうと共に、自己評価を職員同士で行って日々のケアを振り返り、ホーム全体のケアの向上に活かしている。前回評価での改善課題についても前向きに取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、家族、地域の自治会長・民生委員、行政、包括支援センターが出席し、開催されている。ホームの活動報告や外部評価の報告が行われ、委員からのアドバイスを受けている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携の重要性を認識し、利用者状況の報告を市へ行き来する良い機会としている。今年度は、市役所のロビーでホームの作品展が開催され、利用者の励みとなった。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問される家族が多く、その折に暮らしぶりや健康状態の報告をしている。定期的な金銭報告を3ヶ月に1回、行事計画や家族会の案内などが月に1回、文書で報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が開催され、回を重ねる毎に出席数が増え、ホームと家族又は家族同士の意見交換が行われている中で、貴重な意見をもらい運営に活かしている。また、家族の来訪時にも、要望を引き出すよう、言葉に配慮し努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員を育てる法人の方針から、年に1人程度、職員の異動がある。職員の多くは勤務年数が長く、利用者との馴染みの関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員同士で情報を共有し、希望者が研修会に参加出来るよう配慮されている。日ごろのケアの中でも互いに学び合い、研鑽を積んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が支部会に出席した際の報告があり、職員間で共有されているが、他事業所との交流は持たれていない。	○	業務に対する不安感や向上心から、同業者との交流を希望する職員が多く、管理者のみならず職員が勉強会や相互訪問が出来る機会をつくり、サービスの質の更なる向上に役立てていただきたい。
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人にもホームを見学してもらい、他の利用者や職員と話し、雰囲気を感じてもらっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の配膳・下膳は、個人個人で行うこととなっているが、車イス利用者を他の利用者が押して助け合っている。職員全員が、利用者を人生の先輩として尊厳を守り、教わる事に感謝すると共に、家族のような信頼のおけるケアが日々実践されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを引き出す事を大切にし、把握した利用者の希望や意向は、申し送りノートに記録し、職員会議などで職員間で共有し、より良いケアに結び付けている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の来訪時や電話で意見を聞いたり、利用者の表情や思いを観察・考慮しながら全職員で気付きや意見を述べ合い、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援計画の目標実施状況を、毎日個別に記録し、必要時には、すぐに見直して現状にあった支援が行えるよう対応している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診や個人外出などの送迎は家族の協力が得られるため、現在のところ、利用者や家族の要望に応じるような、柔軟な支援は行っていない。	○	家族による送迎が、入居時に取り決められているが、困難な場合には、利用者及び家族の状況に応じたホームの柔軟な支援に期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者全員が母体法人の医師を主治医としており、月2回の訪問診療がある。法人病院受診の際は、職員が付き添い、情報は共有されている。受診にともなう家族への連絡も密に行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期は、法人病院や施設で対応する方針を、入居時に説明している。利用者の状況の変化に応じて、その都度、話し合っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者やその家族の前で他の利用者の話をしないことを心掛けたり、言葉遣いにも配慮している。また、掲示物等にも利用者の尊厳を損なわない配慮がなされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や就寝時間等、入居前の利用者の生活リズムが尊重されている。新聞を購読している方や食事時にカップ麺を食べたい方もあり、希望を確認しながら、一人ひとりの生活の支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士が献立をたて、併設施設の厨房で用意された食材を、ホームで職員が調理する。利用者は、配膳や机拭き、お絞り畳みなどを行っている。また、月2回、ホーム独自の調理の日や外食は大きな楽しみになっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は一日おきに、気の合う利用者2~3人が一緒に入り、楽しんでいる。入浴しない日は足浴をし、リラックスして眠れるよう支援している。夜の入浴も検討したが、利用者の希望で昼間の入浴にしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	俳句や読書、園芸や鉢植えの水遣りなど個人の楽しみ、また、洗濯物たたみ、リビングや居室の掃除等を出来る範囲で役割を持って行えるよう支援している。作品づくりも利用者の大きな楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気候のよいときは、日常的に散歩に出掛け、月に2~3回は買い物やドライブに出掛けるなど、外出支援をしている。寒い時期は、法人内施設を散歩している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は、一般家庭と同じ管理で、夜のみ施錠している。ホームは4Fにあるため、外へ出るためにはエレベーターを利用するが、同階の廊下は自由に行動できる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署にも来てもらい、昼間と夜間の緊急事態発生の設定で、利用者も参加し、避難訓練を行っている。また、食料やオムツの備蓄も確保されている。災害時における地域の協力体制を作れるよう検討している。	○	災害時に地域の協力が得られるよう、防災訓練が地域と共に行えるような取り組みに期待したい。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	リビングにはいつでもお茶が飲めるようポットが用意され、夜間は各自が大きめのカップを自室に持ち込み、水分を補給している。食事の摂取量はおおよそ把握され、月1回の体重測定も実施されている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎朝換気を行い、開放されたトイレからは、臭いはない。ガラス張りのリビングは、開放的で、季節毎の飾りつけや花が飾られ、家庭的な雰囲気になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るく日当たりの良い居室には、作り付けのダンスや洗面台があり、冷蔵庫や鉢植えなど暮らしやすい環境が整えられている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。